

Flying Disc Times

VOL.69('08.09)

| | |
|------------------------------|---|
| 2008世界アルティメット&ガッツ選手権大会 | 1 |
| 第19回全日本学生アルティメット選手権大会 | 6 |



2008世界アルティメット&ガッツ選手権大会

日本代表 金1、銀3、銅2獲得！ 2009 ワールドゲームズ出場権獲得！

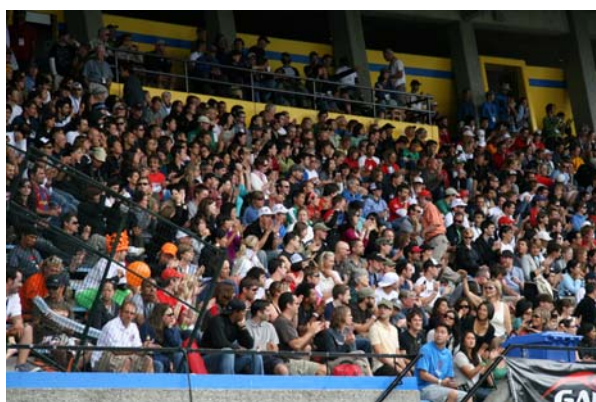


2008年8月2日～8月9日、カナダ（バンクーバー市）で、世界アルティメット&ガッツ選手権大会が開催された。日本からはアルティメット競技で、オープン、ウィメン、ミックス、マスター、ジュニアオープン、ジュニアウィメンの6ディビジョン129名、ガッツ競技でオープン2チーム14名が出場し、8日間の過酷なゲームを戦い、見事6つのメダルを獲得した。



手・ボウリング・水上スキー・フライングディスクなど)の国際総合競技大会「ワールドゲームズ」(IOC 後援)のアルティメット種目への出場権を獲得した。

また、金メダルを獲得したジュニアウィメンチームで大会中 52 点をあげた天田優美選手は、今大会での得点王に選ばれた。



カナダのバンクーバー市は、UPA の強豪チーム「Furious George」の本拠地であり、アルティメットやガッツ競技の本場である北アメリカで開催された大会である。当然ながら他の地域で開催される世界大会よりレベルが高い。この中で日本代表チームがどこまで戦えるかが注目される場所であった。

残念ながらオープン、ウィメン、ミックスなどいずれも頂点が手に届くところまで勝ち上がったが、最後つかむことができなかった。日本のアルティメットやガッツのレベルの高さを世界にみせることは十分に出来たが、一方でやはりアメリカ、カナダなどの力を思い知ることともなった。

その中で、ジュニアウィメンの優勝は、将来日本の更なるレベルアップにつながる、非常に素晴らしい結果であった。

今大会でのジュニアウィメンの戦いは、その技術力、精神力においても非常に心強いものであった。初日こそ硬さが残ったものの、その後の試合は迷いのないスピードある試合展開、接戦をものにする精神的強さやチームワークが感じられた。準決勝では予選で敗れたアメリカを 2 点差で見事にやぶり、決勝ではその勢いに乗り大差でオーストラリアを破り見事優勝した。



ジュニアオープン、結果としてはメダル争いに食い込むことは出来なかったが、いずれにせよ若い世代が世界のレベルを体感してきた経験は大きい。またジュニアオープン、ジュニアウィメンいずれも高校生の選手が数名見事代表に選考されている。今後国内での学生チームの裾野の広がりにも期待したいところである。

また日本のレベルが年々あがる一方で、イギリスなどのヨーロッパ勢の力も上がっていた。オープンでは、イギリスと 2 試合を戦いいずれも僅差での勝利。マスターは 2 試合戦い接戦のすえ 1 勝 1 敗であった。他国内での競技人口の増加や競技レベルの向上がうかがえるところであった。

一方でガッツは、近年競技人口の減少が続く中、各国のガッツプレーヤーが今大会の実現を目指し奔走し、見事世界から8チームが参加する大会を実現することが出来た。日本から2チームが出場した。1チームは2008年の全日本選手権準優勝の「Katon」が母体の「ジャパン・ホワイト」、そしてもう1チームは若手中心の混成チーム「ジャパン・レッド」である。両チームとも優勝候補であり、特にジャパン・ホワイトは予選で勝利したアメリカ・レッドとの決勝戦となり期待がかかったが、惜しくも優勝は逃した。しかしながら今大会における日本代表チームの評価は非常に高く、今後のガッツ競技の世界の中心として日本の役割がますます重要である。



というのもひとつのエピソードがある。特にガッツではその競技性から、「喧嘩」ともとれるような試合中の罵声が競技人口の伸び悩みの一因ともなっていたが、そこに新しい風を吹き込んでいるのは日本チームである。「クリーンであり、強い」このさわやかな日本のガッツを評価し見習い、世界のガッツも変わりつつある。WFDFのガッツ部門の代表は布川氏（KATON所属）が務め、今回の世界選手権の実現や日本国内大会へのアメリカチームの参加など、まさにグローバルでのガッツの普及に奔走している。今回こうして世界選手権が開催されたことは、何よりもガッツ競技者のモチベーションに

つながる。体格差のある欧米チームに対し、日本代表が力勝負を挑み見事勝利する試合は、観戦していてなんと言っても心地よく、見応えがある。是非このような世界選手権の開催が今後も続くよう、ガッツ競技の盛り上げりに期待したい。

アルティメット：オープン戦績

| | オープン |
|----|----------|
| 1 | カナダ |
| 2 | アメリカ |
| 3 | 日本 |
| 4 | イギリス |
| 5 | オーストラリア |
| 6 | スウェーデン |
| 7 | フィンランド |
| 8 | コロンビア |
| 9 | スイス |
| 10 | イタリア |
| 11 | ニュージーランド |
| 12 | ベネズエラ |
| 13 | ドイツ |
| 14 | アイルランド |
| 15 | オランダ |
| 16 | 南アフリカ共和国 |
| 17 | ドミニカ共和国 |
| 18 | メキシコ |

| | 得点 | 失点 | 対戦チーム |
|------|----|----|----------|
| 予選 | 17 | 2 | メキシコ |
| | 17 | 4 | オランダ |
| | 17 | 4 | フィンランド |
| | 17 | 5 | ニュージーランド |
| | 11 | 17 | アメリカ |
| | 14 | 16 | カナダ |
| | 16 | 15 | イギリス |
| 準々決勝 | 16 | 11 | スウェーデン |
| 準決勝 | 10 | 14 | アメリカ |
| 3位決定 | 14 | 12 | イギリス |



第3位。2年前の世界クラブ選手権優勝以来、初の国別対抗での優勝に期待がかかった。アメリカ、カナダに予選で惜敗。特にカナダとは手に汗握る大試合であった。

3位決定戦では、予選で1点差で振り切ったイギリスとの再戦をものにし、3位入賞を果たした。オープンで入賞は1998年以来、10年ぶり。

アルティメット：ウィメン戦績

| | ウィメン |
|----|----------|
| 1 | アメリカ |
| 2 | 日本 |
| 3 | カナダ |
| 4 | オーストラリア |
| 5 | イギリス |
| 6 | ニュージーランド |
| 7 | ドイツ |
| 8 | コロンビア |
| 9 | フィンランド |
| 10 | スイス |
| 11 | スウェーデン |
| 12 | イタリア |
| 13 | アイルランド |
| 14 | フランス |
| 15 | メキシコ |

| | 得点 | 失点 | 対戦チーム |
|------|----|----|---------|
| 予選 | 17 | 6 | ドイツ |
| | 17 | 8 | カナダ |
| | 17 | 6 | イギリス |
| | 17 | 1 | フランス |
| | 17 | 0 | スウェーデン |
| | 17 | 9 | コロンビア |
| | 15 | 14 | アメリカ |
| 準々決勝 | 17 | 5 | コロンビア |
| 準決勝 | 17 | 10 | オーストラリア |
| 決勝戦 | 10 | 13 | アメリカ |



準優勝。1992年の日本（宇都宮）開催

より、2度目の国別対抗での優勝を目指した。予選では、アメリカ戦を1点差で勝ち、予選全勝で決勝トーナメントへ。決勝戦では前半日本がリードするものの、後半に逆転を許し惜しくも敗れたが、見事堂々の準優勝を果たした。

アルティメット：ミックス戦績

| | ミックス |
|----|------------|
| 1 | カナダ |
| 2 | 日本 |
| 3 | アメリカ |
| 4 | オーストラリア |
| 5 | イギリス |
| 6 | ドイツ |
| 7 | フランス |
| 8 | チャイニーズタイペイ |
| 9 | イタリア |
| 10 | コロンビア |
| 11 | 香港 |
| 12 | メキシコ |

| | 得点 | 失点 | 対戦チーム |
|-----|----|----|------------|
| 予選 | 17 | 2 | メキシコ |
| | 17 | 4 | チャイニーズタイペイ |
| | 16 | 17 | カナダ |
| | 17 | 12 | イギリス |
| | 17 | 7 | フランス |
| | 16 | 12 | オーストラリア |
| | 16 | 12 | アメリカ |
| | 17 | 11 | ドイツ |
| 準決勝 | 12 | 10 | オーストラリア |
| 決勝戦 | 8 | 17 | カナダ |



準優勝。2年前のクラブ選手権で、世界のミックスディビジョンのレベルを痛感し、本大会でのメダル獲得を目指した。予選では、強豪アメリカを倒し勢いに乗る。

決勝戦は、予選で敗れたカナダとの再戦となるが、カナダペースでの試合展開となり、大差での敗戦となった。堂々の準優勝でミックストップクラスへ。

アルティメット：マスター戦績

| | マスター |
|----|----------|
| 1 | アメリカ |
| 2 | カナダ |
| 3 | ニュージーランド |
| 4 | オーストラリア |
| 5 | イギリス |
| 6 | 日本 |
| 7 | フランス |
| 8 | イタリア |
| 9 | ドイツ |
| 10 | ベネズエラ |

| | 得点 | 失点 | 対戦チーム |
|-------|----|----|----------|
| 予選 | 17 | 5 | ベネズエラ |
| | 10 | 16 | オーストラリア |
| | 16 | 10 | イギリス |
| | 12 | 17 | ニュージーランド |
| | 13 | 17 | アメリカ |
| | 17 | 14 | フランス |
| | 10 | 17 | カナダ |
| | 17 | 6 | イタリア |
| | 17 | 8 | ドイツ |
| 5位決定T | 17 | 9 | イタリア |
| 5位決定 | 16 | 17 | イギリス |



第6位。2年前のクラブ選手権優勝以来、オープン同様、初の国別対抗での優勝に期待がかかった。相手国の体格差を生かしたプレーに予選から苦戦、決勝 T 出場を逃す。5位決定戦では、予選で勝利したイギリスに1点差で敗戦。

アルティメット：ジュニア・オープン戦績

| ジュニア・オープン | |
|-----------|---------|
| 1 | アメリカ |
| 2 | カナダ |
| 3 | ドイツ |
| 4 | イギリス |
| 5 | コロンビア |
| 6 | オーストラリア |
| 7 | フランス |
| 8 | 日本 |

| | 得点 | 失点 | 対戦チーム |
|-------|----|----|---------|
| 予選 | 6 | 17 | コロンビア |
| | 11 | 17 | フランス |
| | 7 | 17 | カナダ |
| | 4 | 17 | アメリカ |
| | 11 | 16 | オーストラリア |
| | 12 | 17 | ドイツ |
| | 10 | 17 | イギリス |
| 5位決定T | 15 | 16 | コロンビア |
| 7位決定戦 | 11 | 13 | フランス |



第 8 位。日本では確立していないディビジョンであり、どこまで世界に通用するかの挑戦。試合結果は 8 位となったが、コロンビアとの再戦では 1 点差で惜敗。今後の、成長と活躍に期待。

アルティメット：ジュニア・ウィメン戦績

| ジュニア・ウィメン | |
|-----------|---------|
| 1 | 日本 |
| 2 | オーストラリア |
| 3 | アメリカ |
| 4 | コロンビア |
| 5 | カナダ |
| 6 | イギリス |
| 7 | フィンランド |

| | 得点 | 失点 | 対戦チーム |
|-----|----|----|---------|
| 予選 | 17 | 11 | フィンランド |
| | 17 | 13 | オーストラリア |
| | 17 | 10 | カナダ |
| | 15 | 17 | アメリカ |
| | 17 | 2 | イギリス |
| | 16 | 10 | コロンビア |
| | 17 | 5 | オーストラリア |
| | 17 | 8 | コロンビア |
| 準決勝 | 14 | 12 | アメリカ |
| 決勝戦 | 17 | 6 | オーストラリア |



優勝。予選では、最初は緊張から硬くなったプレーが目立ったものの、スピードを生かしたゲーム展開で競合チームに勝利。予選で敗れたアメリカを準決勝で 2 点差で見事に破り、そのままの勢いで、決勝戦に臨んだ。決勝は、大差での勝利となり、ジュニア・ウィメンディビジョンでの初優勝となった。

ガッツ：オープン戦績

| ガッツ | |
|-----|------------|
| 1 | アメリカ(レッド) |
| 2 | 日本(ホワイト) |
| 3 | 日本(レッド) |
| | アメリカ(ホワイト) |
| | カナダ(レッド) |
| | アメリカ(ホワイト) |
| | カナダ(ホワイト) |
| | インターナショナル |



準優勝、第 3 位。2007 年の ITF ガッツトーナメントで優勝し、世界一となった日本のガッツチーム。WFDF で国別対抗の優勝を目指した。日本からは 2 チームが出場し、日本 (ホワイト) は、予選全勝で決勝に進み、優勝の期待が高まった。決勝では、予選で勝ったアメリカ (ホワイト) との対戦となったが惜敗。日本は、準優勝、第 3 位を獲得した。

第19回全日本学生アルティメット選手権大会

中京大学 初のアベック優勝！



オープン：中京大学)、田中選手、石津選手 (ウィメン：日本体育大学)、天明選手 (ミックス：日本体育大学)、藤川選手、三宅選手 (ミックス：中京大学)、小堀選手 (ジュニアウィメン：日本体育大学)、小林選手 (ジュニアウィメン：中京大学) らの、より成長したプレーが期待される大会となった。

2008年8月23日(土)、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場(東京都世田谷区)にて、第19回全日本学生アルティメット選手権大会 決勝戦が行われた。小雨がちらつく涼しい天候の中、雨を吹き飛ばすような熱戦が繰り広げられた。今大会は、オープン、ウィメンとも中京大学が決勝に進出しており、2000年の日本体育大学以来、中京大学初のアベック優勝となるかが見所となった。また8月前半に行われた世界選手権大会に出場した黒野選手、笹辺選手(オープン：中京大学)、須崎選手(ジュニアオープン：中京大学)、田中選手、石津選手(ウィメン：日本体育大学)、天明選手(ミックス：日本体育大学)、藤川選手、三宅選手(ミックス：中京大学)、小堀選手(ジュニアウィメン：日本体育大学)、小林選手(ジュニアウィメン：中京大学)らの、より成長したプレーが期待される大会となった。



ウィメンの部は、西日本・中部予選1位の中京大学 Naughty Kids と、東日本予選1位の日本体育大学 Barbarians との対戦となった。前半は4-4と両チーム譲らずロースコアでの折り返しとなった。後半に入っても7-7までシーソーゲームが続いたが、この後中京大学の連続ブレイクで一気に突き放し、そのまま8-5で勝負を決めた。中京大学オフェンス陣の非常に安定したパス回しが、日本体育大学の激しいディフェンスに粘り勝った結果となった。

オープンの部は、西日本・中部予選1位の中京大学 FLIPPERS と、西日本・中部予選2位の大阪体育大学 BOUHSEARS との対戦となった。両チームは西日本・中部予選の順位トーナメントで対戦し、サドンデスの結果11-10で中京大学が辛勝している。決勝では中京大学がアベック優勝を勝ち取るか、大阪体育大学が予選の雪辱を晴らすか、非常に楽しみな試合であった。



開始早々中京大学が4-2と2点差をつけたが、その後すぐに大阪体育大学が5-5に追いついた後は常に1点差以上開かない、非常に緊迫した手に汗握る試合展開となった。後半9-8の中京大学リードから始まったが、中京大学のミスが続き大阪体育大学が11-9と3連取で逆転すると、その後中京大学が3連取で12-11に再逆転。両チームともマンツーマンやゾーンを駆使し、非常にアルティメットの戦術を研究している両チームであることが伺えた。最後は17-15と中京大学が見事接戦をものにし、中京大学初のアベック優勝となった。



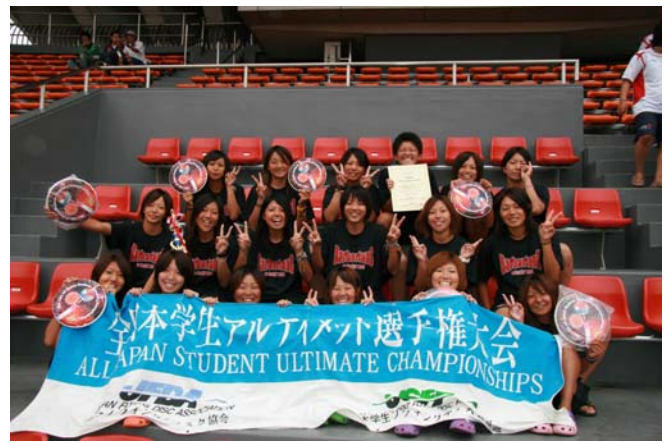
学生選手権の決勝ともなると、非常にレベルの高い試合が行われていることを実感した。自身の所属していた学校の対戦でなくとも、十分観戦で楽しむことができる。しかしその割には観客・応援する学生の少なさが気になった。ここ数年の決勝のカードが中部・西日本勢が多いこともあるが、東京のど真ん中、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場という素晴らしい立地、素晴らしいグラウンド、そして素晴らしい試合が展開されている中、ちょっと寂しさを感じた。いや「もったいない」と感じた。

学生チームの実力レベル差も開いている。しかしこんなに勉強材料になり、同世代が戦っている試合がすぐ近くで行われているのに試合観戦にくる選手が少ないことは、その原因を指し示しているように思える。

夏休み後半の休日。学生時代にちょっとフライングディスクをかじった OBOG、ドッジビーを始めた方々、そして学生選手権で惜しくも敗れ去った選手たち。是非駒沢競技場に足を運んで学生の決勝戦をもっと盛り上げてみませんか？

ウィメン 優勝 中京大学

ウィメン 準優勝 日本体育大学



オープン 優勝 中京大学

オープン 準優勝 大阪体育大学



オープン MVP 黒野 将司 選手(中京大学)
 ウィメン MVP 水上 紗央里 選手(中京大学)

敢闘賞 山本 大輔 選手(大阪体育大学)
 敢闘賞 田中 美江 選手(日本体育大学)



ベスト7



| オープンの部 ベスト7 | | ウィメンの部 ベスト7 | |
|-------------|------------------|-------------|-------------------|
| 須崎 立也 | 中京大学 FLIPPERS | 水野 由惟 | 中京大学 Naughty Kids |
| 黒野 将司 | 中京大学 FLIPPERS | 三宅 佐都美 | 中京大学 Naughty Kids |
| 金下 元紀 | 中京大学 FLIPPERS | 藤川 明奈 | 中京大学 Naughty Kids |
| 片山 雄介 | 中京大学 FLIPPERS | 水上 紗央里 | 中京大学 Naughty Kids |
| 森下 卓 | 大阪体育大学 BOUHSEARS | 天明 慶子 | 日本体育大学 BARBARIANS |
| 田中 克典 | 大阪体育大学 BOUHSEARS | 田中 美江 | 日本体育大学 BARBARIANS |
| 山本 大輔 | 大阪体育大学 BOUHSEARS | 石津 安沙実 | 日本体育大学 BARBARIANS |

大会結果

| オープンの部 | | ウィメンの部 | |
|--------|--------------------|--------|--------------------|
| 優勝 | 中京大学 FLIPPERS | 優勝 | 中京大学 Naughty Kids |
| 2位 | 大阪体育大学 BOUHSEARS | 2位 | 日本体育大学 BARBARIANS |
| 3位 | 上智大学 FREAKS | 3位 | びわこ成蹊スポーツ大学 LAKERS |
| 4位 | 成蹊大学 LIBEROS | 4位 | 大阪体育大学 BOUHSEARS |
| 5位 | 慶應義塾大学 HUSKIES | 5位 | 立教大学 MANEUVERS |
| 6位 | 日本大学 Hummingbirds | 6位 | 横浜国立大学 COUGARS |
| 7位 | 近畿大学 MAFFIA | 7位 | 関西学院大学 ARROWS |
| 8位 | 日本体育大学 BARBARIANS | 8位 | 國學院大學 TRIUMPH |
| 9位 | びわこ成蹊スポーツ大学 LAKERS | 9位 | 慶應義塾大学 HUSKIES |
| 10位 | 関西学院大学 ARROWS | 10位 | 獨協大学WAFT! |
| 11位 | 千葉大学 MISTRAL | 11位 | 日本大学 Hummingbirds |
| 12位 | 獨協大学WAFT! | 12位 | 同志社大学 Magic |



NPO法人 日本フライングディスク協会

本部 〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 4-20-24

『Flying Disc Times』VOL. 69(平成20年9月28日発行)

発行人・長谷川純三／企画 編集・岡本紀彦